

児童生徒質問紙調査結果の分析や考察

○児童生徒質問紙回答結果のグラフ

- 本調査は児童質問紙（小学校）、生徒質問紙（中学校）とも、74項目の質問からなる膨大な調査です。
- 本調査は11分類74項目【①学習に対する関心・意欲・態度に26の質問：（以降数字は質問数）②学習及び指導の状況：12③学習習慣や時間：10④学校生活：4⑤生活習慣：6⑥家庭でのコミュニケーション：2⑦地域とのかかわり：1⑧社会に対する興味・関心：4⑨将来に対する意識：1⑩自尊意識：3⑪規範意識：5】の質問で構成されています。
- 小学校・中学校とも数項目を除いて、全国平均よりポイントが低い傾向にあります。
- 小学校・中学校ともテレビ等の視聴時間、ゲームの使用時間は全国平均より長く、朝食摂取や定時就寝・起床等も含め、生活習慣のポイントは低い傾向にあります。
- 小学校・中学校とも成就感の有無や自分の良さなど、自尊意識のポイントは低い傾向にあります。
- 小学校・中学校とも学校のきまりや友達との約束、他の気持ちやいじめに対する規範意識のポイントは、やや低い傾向にあります。
- 小学校・中学校とも家庭での宿題や復習には取り組んでいるが、休日や平日の勉強時間が短く、特に計画的な家庭学習が弱く、学習習慣のポイントは低い傾向にあります。
- 小・中学校とも国語や算数・数学の大切さや好感は高く、学習に対する関心意欲はあるが、特に学習内容の理解が不十分で、困難な問題に出会うと諦めが早い傾向にあります。

○児童生徒質問紙調査結果のチャート図

- 全国を100としたときの、全道と七飯町の結果の比較です。一目でその特長がつかめます（七飯町の数値は、質問項目の七飯町の児童生徒数の割合÷全国の児童生徒数の割合×100で算出）
- 小学校・中学校とも11分類中6分類（生活習慣、学習習慣、自尊意識、規範意識、国語の学習、算数・数学の学習）の質問項目の結果を、チャート図化しています。
- 全国よりポイントの低い項目の分析は、前述グラフの分析や後述の児童生徒質問紙調査のまとめでも言及しますので、ここでは全国よりポイントの高い項目を取り上げます。
- 小学校・中学校とも授業の復習を、家庭学習で取り組むポイントは高いです。
- 小学校・中学校とも学習塾に通っていない割合は高いです（その良否の判断は分かれるところですが、下校後の学習時間が少なくなることは事実です）
- 小学校・中学校とも国語、算数・数学を学ぶことは大切で、将来に向けて役に立つと判断するポイントは高いです。
- 小学校では、国語で文章の効果的な読み方、算数の公式やきまりの理由の理解についてのポイントは高いです。
- 中学校では、国語の勉強が好き、読書が好き、授業で自分の考えを理由をあげ

て書く、意見の発表の仕方、資料の読み取り・書き方など、多くの領域のポイントが高いです。また、数学の勉強は大切、将来役に立つ、普段の生活での活用を考えるのポイントは高いです。

□児童生徒質問紙調査結果の経年変化

- 学習習慣・生活習慣・自尊意識・規範意識等 11 項目の経年変化を掲載しています。
- ほとんどの項目で年度毎の振幅やその大小はありますが、19年度から徐々に向上している様子がわかります。（ただし、テレビの視聴時間、ゲームの使用時間の項目が高いのは、マイナス面になります。）
- 特にゲームの使用時間項目の割合が増大しているのは大きな問題です。
- 小学校、中学校とも25年度の学習習慣、自尊意識、規範意識のほとんどの項目で突出してポイントが高く、逆に21年度はポイントの低い項目が多くみられます。
- 上記の特長を平均正答率の経年変化と比較し、その関連性や因果関係を調べる中で、指導のポイントが得られる可能性もあります。
- 「読書が好き」という項目のグラフに、小学校・中学校とも七飯町のグラフがありません。これは、7回の調査（平成19年から26年度）すべてで、60%に満たないということで、全国・全道との大きな差があり、特に重大な課題となります。

□学校質問紙調査結果の経年変化

- 学習のきめ細かい指導6項目の調査結果を掲載しています。七飯町のグラフが無い（全体や一部欠如）項目がありますが、グラフ縦軸の割合の範囲に無い事を意味します。
- 母集団が少ないため（小学校：8 中学校：4）グラフの振幅が激しく、全国・全道との比較など、統計的に正確さを欠く面がありますが、大まかな取り組みの傾向は把握することができます。
- 全項目とも、近年の「一人一人の重視、基礎・基本の重視、学力向上」の流れを受け、年度ごとに指導の割合が向上している様子がうかがえます。その傾向は、放課後補充指導を除いて、小学校で顕著にみられます。
- 特に小学校国語・算数の「家庭学習の評価・指導」（宿題の○つけや赤ペン入れ、取り組み状況表などの工夫）は、24年度以降急激に向上し、全国・全道の割合を大きく凌いでいます。